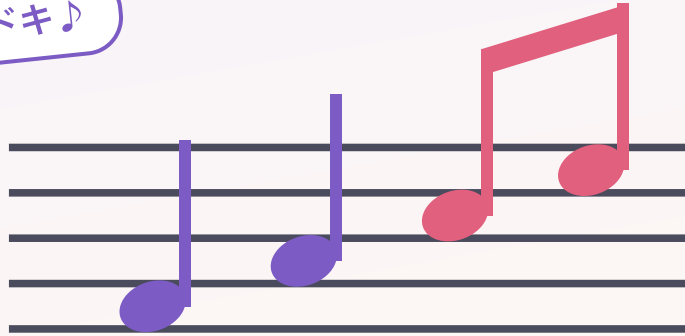


ドキドキ♪



気持ちが伝わった！

表情をつけて歌う

気持ちをのせて、歌に色をつけよう



この教材の使い方

1

声と体で感じる

音楽は、歌ったり手をたたいたりするほど身につきます。気になったところは、何度でも声に出してみましょ

2

本物の音を聴く

この教材に出てくる曲や楽器は、音源や動画でも聴いてみましょう。耳で知ると、理解がぐっと深まりま

3

「やってみよう」は手と体で

答えは30ページにあります。正解がひとつではない問題もあります。自分の感じ方を大切にしましょう。



Ken (ケン)

音楽が好きな中学生。ギターを始めたばかり。



Emma (エマ)

カナダから来た留学生。ピアノが得意。

もくじ

表情ってなに	3～6
表現の道具	7～10
表現をデザインする	11～14
自分の表現を見つける	15～19
練習しよう	20～24
ふり返り	25～30

歌の表情とは、気持ちの伝え方のことです。

同じメロディでも、表情のつけ方によって、明るくも切なくも聞こえます。



- 音程やリズムが合っていても、表情がないと平たんに聞こえます。
- 表情は、聴く人の心に届く歌にするための大切な要素です。

1. 表情豊かだと感じた歌や人を、思い出して書こう。

書いて覚えよう



本当だ。こわい顔で歌うと、声もかたくなるね。



笑いながら歌うと、声も明るくなる気がする。

- 笑顔で歌うと、声もやわらかく明るく響きやすくなります。
- 顔の表情と声は、体の中でつながっています。

1. 笑顔で「ありがとう」と歌い、声の感じを確かめよう。
2. 同じ言葉を、真顔で歌ってみて、ちがいを感受しよう。

- 歌詞には、うれしい・さびしい・なつかしいなど、さまざまな気持ちがこめられています。
- その気持ちを見つけることが、表情をつける第一歩です。
- 同じ歌詞でも、読む人によって感じ方が少しずつちがっても構いません。

1. 好きな歌詞を1つ選び、そこにある気持ちを書こう。

景色や場面を思いうかべると、表情が生まれます。

- 歌詞に出てくる景色や場面を、頭の中に思いうかべてみましょう。
- 想像した場面が具体的なほど、声にも自然な表情がつきやすくなります。

1. 好きな歌詞の場面を、頭の中に思いうかべてから歌ってみよう。
2. 思いうかべた場面を、簡単に書こう。

ワンポイント 場面を思いうかべるのが難しいときは、写真や絵を見ながら歌うのもよい方法です。

強く

弱 <

だんだん遅く

- 強く歌う部分と弱く歌う部分をつくると、メリハリが生まれます。
- 少し速さをゆらすと、感情の高まりや落ち着きを表せます。
- 強弱も速さも、やりすぎるとわざとらしく聞こえることがあります。

1. 同じフレーズを、強く歌う場合と弱く歌う場合の両方で歌おう。
2. サビの終わりを、少しだけゆっくりにして歌ってみよう。

声には、明るさや温度のような色があります。

- 同じ高さの声でも、出し方によって明るく聞こえたり、あたたかく聞こえたりします。
- 声の色を変えるには、口の開け方や息の量を変えるのが効果的です。
- 場面に合った声の色を選ぶと、表現の幅が広がります。

1. 「おはよう」を、明るい声とやさしい声の2通りで言ってみよう。

明暗のイメージを、声で表してみよう。

明暗のイメージを、声で表してみよう。

口を大きく、軽やかに

楽しい場面に合う

元気な印象になる

やわらかく、落ち着いて

しずかな場面に合う

落ち着いた印象になる

1. 「さようなら」を、明るい声と落ち着いた声の両方で言ってみよう。

言葉をひとかたまりとして歌おう。

音楽のひとまとまり。意味のまとまりに近い

- 1つ1つの音をバラバラに歌うより、フレーズごとにまとめると自然に聞こえます。
- フレーズの始まりと終わりを意識すると、表情がつけやすくなります。

1. 好きな歌の1フレーズを、ひとつながりの言葉のように歌ってみよう。

曲の山と、しずかな終わり方をつくろう。

- 歌は、自分のためだけでなく、聴く人に届けるものでもあります。
- 「だれか1人に伝えるつもり」で歌うと、自然な表情が生まれやすくなります。
- 目の前にだれもいなくても、思いうかべるだけで表現は変わります。

1. 大切な人を1人思いうかべて、その人に向けて1フレーズ歌おう。

自分の表情を、目で確かめよう。

- 鏡を見ながら歌うと、自分の顔の表情や口の動きを確認できます。
- 気持ちが顔に出ているかどうかは、鏡でチェックするとわかりやすいです。

やってみよう

1. 鏡の前で、うれしい気持ちを込めて1フレーズ歌おう。
2. 同じフレーズを、さびしい気持ちで歌い、表情のちがいを見よう。

ワンポイント 鏡がないときは、スマートフォンの画面を利用してもかまいません。

書いて覚えよう



同じ曲を、元気に歌うのと、しっとり歌うのとどっちがいいかな？



どちらも正解だよ。気分や伝えたいことで選べばいいんだよ。

- 同じ曲でも、歌う人や気分によって、ちがう表現が生まれます。
- いろいろな歌い方を試すと、自分に合った表現が見つかりやすくなります。

1. 好きな曲を、元気な表現としずかな表現の2通りで歌ってみよう。

感じたことを、言葉にしてみよう。

- 歌う前に「どんな気持ちで歌いたいかな」を言葉にしておくと、表現がぶれにくくなります。
- うれしい・さびしい・なつかしいなど、簡単な言葉でかまいません。

やってみよう

1. 好きな曲を、どんな気持ちで歌いたいか、ひとことで書こう。

書いて覚えよう

- プロの歌手の歌は、強弱や速さの使い方に工夫がたくさんつまっています。
- 「どこで強くしているか」「どこでためているか」に注目して聴いてみましょう。
- まねすることは、表現を学ぶ良い方法のひとつです。

1. 好きな歌手の歌を1曲聴き、表情の工夫を1つ見つけて書こう。

やりすぎると、かえって伝わりにくくなります。

- 強弱や表情を出しすぎると、わざとらしく聞こえることがあります。
- すべての言葉を大げさに歌うと、大切な部分がぼやけてしまいます。
- 「ここぞ」という部分にしぼって表現すると、伝わりやすくなります。

1. わざと大げさに1フレーズ歌ってみて、聞こえ方を確かめよう。

- 強弱・速さ・声の色・盛り上がりなど、学んだ工夫を組み合わせましょう。
- 全部を一度に意識しなくても、1つずつ増やしていけば十分です。

1. 好きな曲を1曲、表情を意識して最後まで歌ってみよう。
2. とくに意識できた部分を書こう。

This image shows a full page of white paper with horizontal blue ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page, leaving small margins at the top and bottom. There are no vertical margin lines or other markings on the page.

実際にやってみよう・ペアで練習

表情を出し合って、伝え合おう。

A (うれしい気持ちで) 今日はいい天気だね

B (気持ちを当てて) _____

A (さびしい気持ちで) 今日はいい天気だね

B (気持ちを当てて)

ポイント

- A が気持ちを込めて話し、B がその気持ちを当てる練習です。
- 気持ちが伝わったかどうかを、2人で話し合ってみましょう。

ワンポイント 伝わらなくても大丈夫。何度も試すうちに、表現の引き出しが増えていきます。

書いて覚えよう

よくあるつまずき・上達のコツ

つまずきは、上達のサインです。

つまずき

よくあること

表情がかたい

気持ちを込める前に声だけ出している

全部同じ強さ

強弱の差をつけられていない

わざとらしい

表現をつけすぎている

コツ

こうしてみよう

場面を思いうかべる

頭の中に景色を描く

強い部分を1つ決める

そこだけしっかり強く

鏡でチェックする

自然かどうか目で見る

ポイント

- できないところは、1フレーズずつ区切って練習しましょう。
- 少しずつ自然な表現が増えていくのを楽しみましょう。

やってみよう

1. あなたが表情づけてつまずきやすいことは？ _____
2. 上のコツから、1つえらんで試してみよう。

書いて覚えよう

用語をおさらい

この教材で出てきた言葉を確認しよう。

強弱の言葉

☐ フォルテ

強く

☐ ピアノ

弱く

☐ リタルダンド

だんだん遅く

表現の言葉

☐ 表情

気持ちの伝え方の工夫

☐ フレーズ

音楽のひとまとまり

☐ 声の色

明るさ・あたたかさなどのちがい

場面の言葉

☐ 盛り上がり

曲でいちばん高まる場所

☐ 場面を想像する

景色を思いうかべること

☐ 聴く人を意識する

だれかに届けるつもりで歌う

練習の言葉

☐ 鏡の練習

自分の表情を目で確認

☐ まね

上手な表現を学ぶ方法

☐ 自分らしさ

自分が心地よい表現

ワンポイント 覚えた言葉に✓をつけよう。言葉を知ると、練習のポイントも伝わりやすくなります。

書いて覚えよう

復習クイズ

ここまでの内容をチェックしよう。

1. 言葉と意味を線でむすぼう

- | | | |
|-------|---|------------------|
| フォルテ | ● | ● ア. 気持ちの伝え方の工夫 |
| ピアノ | ● | ● イ. 曲でいちばん高まる場所 |
| フレーズ | ● | ● ウ. 弱く |
| 盛り上がり | ● | ● エ. 音楽のひとまとまり |
| 表情 | ● | ● オ. 強く |

2. 表現にかかわる言葉を3つ書こう

1. _____
2. _____
3. _____

3. 正しいほうに○をつけよう

1. 「強く」を表す言葉 → (フォルテ / ピアノ)
2. 「弱く」を表す言葉 → (フォルテ / ピアノ)

書いて覚えよう

書いて覚えよう

笑顔で「おはよう」を言う

好きな歌詞の場面を思いうかべる

強弱をつけて1フレーズ歌う

鏡の前で表情を確認する

今日心が動いたことをノートに書く

家族の前で気持ちを込めて1曲歌う

- 1回5分でも、毎日続けることが表現の力を育てます。

発表してみよう・感想を書こう

育ててきた表現を、人に聴いてもらおう。

発表した日

歌った曲

意識した気持ち

聴いてくれた人の
感想

Emma の例

発表した日 6月20日／曲 好きな歌の1番／意識した気持ち なつかしさ／感想 景色が目にかんだと言われた

感想を3文で書こう

① 表情をつける前は、～でした。② 今は、～ができるようになりました。③ これからは、～を練習したいです。

書いて覚えよう

もっと知りたい人へ・次のステップ

表現の力は、これからも育っていきます。

もっと知りたい人へ

動画で

プロの表現を見てまねる

録音で

自分の表現を聴きくらべる

演奏会へ

生の表現にふれる

次のステップ

ハモリ

音を重ねて響かせる練習

合唱

みんなで声を合わせる練習

1曲を通す

最初から最後まで歌いきる

ポイント

- この教材の次は「ハモリに挑戦」。表情に、重なる声の響きを加えていきます。

書いて覚えよう

表情をつけて歌うチャレンジ

毎日の中でも、表現はすぐに練習できます。

読もう

歌詞から**気持ち**を見つける

つけよう

強弱をつけて1フレーズ歌う

届けよう

だれか1人を思いうかべて歌う

こたえ

L26 フォルテ→オ ピアノ→ウ フレーズ→エ 盛り上がり→イ 表情
→ア 2. フォルテ / ピアノ / フレーズ 3. フォルテ / ピアノ

L33 (例) 表情とは、強弱や速さ、声の色で気持ちを伝える工夫のこと。

書いて覚えよう

表情をつけて歌う (Season 3 | No.25)

発行：一般社団法人文化芸術支援協会

この教材の著作権は一般社団法人文化芸術支援協会に帰属します。個人の学習および家庭内での利用に限り、閲覧・保存・印刷ができます。

有料の講座・塾・研修での使用、販売・再配布、改変しての公開、生成AIへの入力などの商用利用は禁止しています。

くわしくは当協会ウェブサイトの「ウェブサイト利用規約」をご覧ください。